

鶴岡工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	保健・体育Ⅴ	
科目基礎情報							
科目番号		0141		科目区分		一般 / 必修	
授業形態		講義		単位の種別と単位数		学修単位: 1	
開設学科		創造工学科（機械コース）		対象学年		5	
開設期		前期		週時間数		1	
教科書/教材		Activesports					
担当教員		松坂 渉,松橋 将太					
到達目標							
1 生涯スポーツの観点から、様々なスポーツ活動を通じて自己に見合った活動実施ができる。 2 心身の健康維持のために、習慣的なスポーツ活動を協力して計画・立案できる。 3 運動を行う環境に対して自身の役割を理解し、他者と協力して環境設営ができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安(優)		標準的な到達レベルの目安(良)		未到達レベルの目安(不可)	
1. 意欲・態度		自己の健康管理のために必要な知識を理解し、具体的な取り組みを計画することができる。		自己の健康管理のために必要な知識を理解し、取り組みに参加できる。		運動を通じて、自身の健康管理意識が見られない。	
2. 協働・協力		心身の健康維持のために、習慣的なスポーツ活動を協力して計画・立案できる。		心身の健康維持のために、習慣的なスポーツ活動のために協力できる。		心身の健康維持のために、習慣的なスポーツ活動のために消極的である。	
3. 自己管理・配慮		自己の健康維持のために運動機会を設ける思考力・環境設定・安全管理ができる。		自己の健康維持のために運動機会を設ける思考力・環境設定ができる。		自己の健康維持のために運動機会を設けるための倫理観が養成できない。	
学科の到達目標項目との関係							
(B) 幅広い教養と技術者・研究者としての倫理を身につける。							
教育方法等							
概要		基本的習慣を鑑みて、自身の健康維持を目的とした生涯スポーツの実施に取り組むことができる。 さらには、集団での取り組みを基本とし、自身の体調を考慮した自己管理能力と体力の養成ができる。					
授業の進め方・方法		適時種目内容に応じて適切な施設、用具、服装を使用して、毎時間の目標に沿った形で進めることとする。					
注意点		特に注意すべき評価対象となるべき行為 ・理由なき遅刻（私的な都合は理由にならない） ・無断早退（どんな場合でも本人が教員に報告してから早退すること） ・授業に関係ない電子機器の操作（単位認定の可否有）					
事前・事後学習、オフィスアワー							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	校内体育大会練習 1		・各種目のルールを守り、安全な環境設営ができる。		
		2週	校内体育大会練習 2		・仲間と協力して行動できる。		
		3週	校内体育大会練習 3		・実戦に向けた基本的技術習得のための練習を実践できる。		
		4週	校内体育大会練習 4		・基本技能を活かし、楽しく意欲的に競技することができる。		
		5週	校内体育大会練習 5		・自己の能力に応じ、楽しみながらゲームに参加できる。		
		6週	スポーツ活動計画署による実施		・「スポーツ活動計画書」を基に実施する。		
		7週	スポーツ活動計画署による実施		・「記入者・キャプテン」の両方を 1 回以上担うこと		
		8週	スポーツ活動計画署による実施		・「用具責任者」を2回以上担うこと、		
	2ndQ	9週	スポーツ活動計画署による実施		以上の参画要件を満たすこと、		
		10週	スポーツ活動計画署による実施				
		11週	スポーツ活動計画署による実施		※種目別協働実施①（屋外）とは異なる種目選択を実施する。		
		12週	スポーツ活動計画署による実施		・「スポーツ活動計画書」を基に実施する。		
		13週	スポーツ活動計画署による実施		・「記入者・キャプテン」の両方を 1 回以上担うこと		
		14週	スポーツ活動計画署による実施		・「用具責任者」を2回以上担うこと、		
		15週	スポーツ活動計画署による実施		以上の参画要件を満たすこと、		
		16週	スポーツ活動計画署による実施				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。		3	
				自らの考えで責任を持つものごとに取り組むことができる。		3	
				目標の実現に向けて計画ができる。		3	
				目標の実現に向けて自らを律して行動できる。		3	

				日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	3	
				チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	3	
評価割合						
		意欲・態度	協働・交流	自己管理・配慮	合計	
総合評価割合		40	30	30	100	
集団態度		40	0	0	40	
取組態度		0	30	0	30	
協力・協調		0	0	30	30	